

事業概要書

事業名	気仙沼市唐桑町舞根地区におけるまちづくり復興支援事業				
開始日	2011年7月1日	終了日	2012年6月30日	日数	365日間
団体名	特定非営利活動法人 森は海の恋人				

総額（税込）	9,990,000円	スタッフ人数	2人
--------	------------	--------	----

事業目的	<p>東日本大震災により壊滅的被害を受けた気仙沼市唐桑町舞根地区において、集団移転に伴う新しいまちづくりを行うことによって震災後の象徴的な復興モデルを構築し、そのモデルを全国に発信することで、同じように被災した三陸沿岸部の各地域に復興への希望を与える。</p>
事業全体の概要	<p>【背景】</p> <p>「特定非営利活動法人 森は海の恋人」は豊かな森を守るための植林を通して川や海の環境を保全する活動を、1989年から20年以上に渡って継続して実施してきた。近年では環境教育にも力を入れ、小中学生に対する自然環境の体験学習を毎年実施し、現在では「森は海の恋人」運動は全国の小学校の教科書に掲載されるなど環境教育のシンボルとして全国的に広がっている。</p> <p>そのような中、「森は海の恋人」は環境問題・環境教育に強みを持つ地元発のNPOとして、環境を軸にした被災地における新しいまちづくりのモデルを作りたいと考えている。具体的には、高台への集団移転を予定している気仙沼市唐桑町舞根地区において持続可能なまちづくりを行っていく。舞根地区では舞根湾沿いにあった52世帯のうち44世帯が津波で流されるなど、集落全体が壊滅的な被害を受けた。そのため、集落全体で200メートルほど離れた高台への集団移転に向けた取り組みを進めており、被災地で最も早く宅地造成費の4分の3を国が補助する「防災集団移転促進事業」へ応募するなど、積極的に新しいまちづくりに向けた取り組みを進めている。</p> <p>【事業内容】</p> <p>今回の事業では被災後の新しいまちづくりのモデル事業として、舞根地区における環境を軸にした持続可能なまちづくりを実施する。具体的には、太陽光発電や海藻を用いたエタノール生成等によるエネルギーの自給自足、シーカヤックを使った汚泥・油層除去や海中の観察を行うエコツアー、室根山や舞根湾での自然体験学習キャンプなどの環境教育プログラム等をまちづくりの初期段階からコンセプトに盛り込み、効率的で持続可能なまちづくりの計画を策定し、実行に携わる。</p> <p>まちづくりの計画策定・実行の各段階においては自治会と定期的に協議を行い、地元住民からの意向を十分汲み上げ、地元からのコンセンサスを得ながらまちづくりを進める予定である。加えて、これまで協力の申し出が来ているNPO法人SONERSやNPO法人田んぼなどの環境系NPO、東北大学や京都大学などの研究機関等と今後協働することも検討している。</p>

	<p>また、その第一歩として、今年度は舞根地区におけるカキ養殖施設を活用した自然環境の体験学習プログラムを実施する。加えて、今後のまちづくりの基礎情報として被災後の自然環境や回復状況を調査するための研究プログラムを舞根地区で実施し報告書を作成する。</p>
<p>事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと) [※括弧内は現時点における暫定的な時期]</p>	<p>裨益者 (誰が、何人)</p>
<p>① 集団移転に伴うまちづくり支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境を軸にした持続可能なまちづくりのコンセプト・計画策定 (～11年10月) ・舞根地区における持続可能なエネルギー政策の立案 (～11年10月) ・コミュニティの中心となる集会場 (11年9月) や環境教育プログラム用の研修棟の建造 (12年4月) ・エコツアーや環境教育を実施するための人材育成 (11年11月～12年5月) ・まちづくりに対する支援の適切な集約・峻別と支援要請の実施 (随時) 	<p>集団移転を予定している舞根地区住民:約140人 (集団移転を検討している沿岸部被災地住民:約2.5万人)</p>
<p>② 自然環境体験学習・まちづくり基礎調査実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型のサマースクールやワークショップの実施 (11年8～10月) ・研究機関と連携したまちづくりの基礎調査、及び自然環境の現状把握のための調査研究の実施 (～11年11月) ・他地域における自然環境体験学習プログラムの視察 (11年10月) ・基礎調査結果をまとめたレポートの作成・配布 (12年7月) 	<p>体験学習プログラムへの参加者:約150人 集団移転を予定している舞根地区住民:約140人</p>